

自動洗浄化 五カ年計画始まる!

大阪市教育委員会

狭いスペースでも 洋式化を実現。

埼玉県杉戸町立 杉戸中学校

あ らゆる個人、法人がエ
コロジーの名のもと、
節約に励む今日、それ
は地方自治体も例外ではない。
大阪府は平成20年度から5カ
年計画で市立小中学校460校
のうち、トイレの劣化の著しい
約130校の改修計画をスター
トさせた。これは洋式便器化を
主目的にした改修だが、同時に
小便器の洗浄システムの改修も
並行して行っている。教育委員
会でこの計画を担当する保全整
備担当の駒田係長と中林係長の
おふたりはその狙いとして「臭

既 存のトイレを改装し、
和式便器から洋式便器
に変更する場合、設計
担当者をはじめ悩ませるのが
「スペース」の問題。通常、ト
イレのドアは内開きだが、和式
便器の場合は便器の上を通過さ
せることができる。だが、そう
いったサイズのブースで洋式便
器に交換すると、ドアが便器に
あたってしまうことがある。
このありがちな課題をR型と
よばれるドアの採用で解消した
のが埼玉県の杉戸町立杉戸中
学校だ。文字どおり曲面のドアが



1. 手を差し出すとセンサーが反応する自動水栓は止め忘れも防げる上、少ない水量で手が洗える工夫もされており、節水に大きく貢献する。
2. 人が立つと前洗浄を行い、離れると後洗浄を行う自動洗浄小便器。学校では連続使用が想定されるので、大阪府では後洗浄のみに設定。

莫大な水道光熱費は学校数が多い大都市ならではの悩み。中林係長（左）と駒田係長（右）はランニングコストの重要性を訴える。



気防止」と「節水」をあげる。
「現状、大阪の小中学校の洗浄
方式はタイマーで指定の時間に
洗浄する方式なんです。老朽
化で時間どおり流れなくなった
かと思うと、深夜に無人の学校
で流れていたりするんです」
ちゃんと流れなければ臭気の

原因になるし、深夜に流れれば
それは水道代にはね返ってくる。
そこで小便器の洗浄と手洗いの
水栓をセンサー式に変更し、臭
気と節水の問題に対処しようと
いうわけだ。税金の飛躍的な伸
びが期待できない以上、こうい
った改修はまだまだ増えそうだ。



円周上をスライドするため、ド
アを開いた後もブース内の空間
は広々していて、人の出入りも
非常にラクだという。
また、カラーバリエーション

が豊富なこのブースを採用した
ことで、生徒がカラーコーデ
ィネットに参加。学校トイレには
あまり見られない、若々しい空
間を作り上げることに成功した。

1. トイレドアが開いた状態でも、ブース内でドアが邪魔をせず、出入りがスムーズ。
- 2,3. トイレ内のカラーコーディネートは2年生から選ばれた「トイレ見直し隊」が担当。ビビットなカラーのトイレブースを採用したことで、原色を多用した楽しいトイレ空間ができあがった。

